

## 抗 EID 1 抗体、マウスモノクローナル (#26)

71-185 100 µg

保存： 4℃または-20℃で送付、-20℃で保存。

抗原： ヒト EID1 タンパク質のアミノ酸 159~187 を含む合成ペプチド

形状： 精製マウスモノクローナル抗体 (IgG) 1 mg/ml in PBS<sup>-</sup> with 50% glycerol, ろ過滅菌済

Isotype: マウス IgG2a κ

反応性： ヒト

用途:

1. ウェスタンブロッティング (~1 µg/ml)
2. 蛍光免疫染色 (~1 µg/ml)

背景： **EID1** (EP300 interacting inhibitor of differentiation) は 21 kDa のタンパク質で、RB1 及び EP300 タンパク質と結合して MYOD1 遺伝子の転写のレプレッサーとして機能する。**EID1** は EP300/CBP のヒストンアセチルトランスフェラーゼ活性を阻害する。**EID1** は細胞周期の進行の終了と細胞分化に必要な遺伝子の転写制御をカップルさせる機能に関与していると考えられている。

データリンク: Swiss-Prot [Q9Y6B2](#)

文献: 本抗体は未だ使用文献がない。

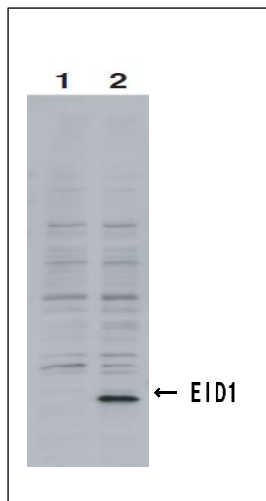


図 1. 細胞粗抽出液中のEID1タンパク質ウエスタンブロッティング

乳癌細胞MCF7細胞にベクターpCMV1 (レーン1) または EID1発現ベクターpcDNA3/EID1 (レーン2) をトランスフェクションして培養し、それらの細胞粗抽出液をモノクローナル抗体#26を一次抗体とし、HRP結合抗マウスIgGを二次抗体として用いて、ウエスタンブロッティングを行った。21 kDaのタンパク質の位置 (矢印) にEID1タンパク質を検出できる。

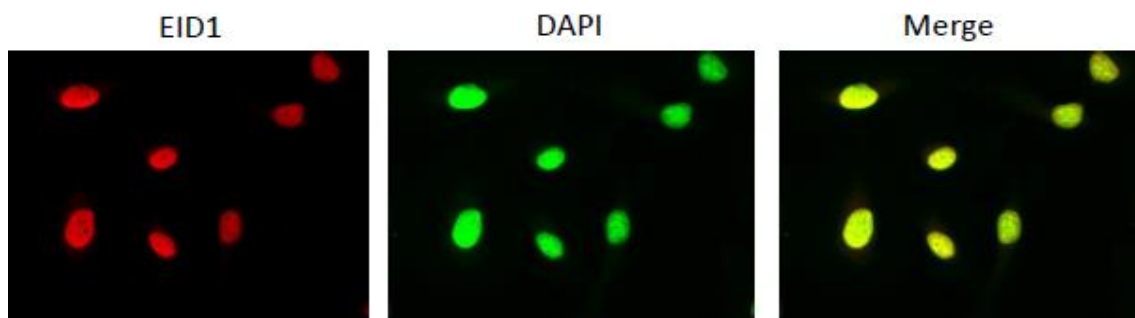


図2. 抗 EID1 抗体 (#26) を用いた関節免疫蛍光染色による HeLa 細胞中の EID1 タンパク質の同定

細胞は 4% paraformaldehyde で固定し、0.25% Triton X-100 で透過処理をした。抗 EID1 抗体は 1/1,000 希釈で使用。二次抗体は Alex 488 で標識したヤギ抗ウサギ IgG 抗体を 1/1,000 希釈して用いた。DNA は DAPI で染めた。EID1 タンパク質は核に局在している。

関連製品 # [71-190](#) 抗 EID1 抗体、マウスモノクローナル (#2)